

## 市議会請願・陳情審査状況について



令和元年度市議会に提出された請願・陳情の審査状況

請願 1 号	<b>義務教育に係る国による財源確保と、30人以下学級の実現をはかり、教育の機会均等と水準の維持向上、並びにゆきとどいた教育の保障に関する請願</b>	令和元年 6月 11日 提出 令和元年 6月 20日 付託 令和元年 6月 21日 継続審査
審査の結果 : 継続審査		

陳情 8 号	<b>川崎市立南生田中学校の体育館への空調設備・シャワー設備の設置及び、格技室の新設または金工室の格技室への変更（空調設備含む）と外付けトイレ設備・シャワー設備の設置のお願いに関する陳情</b>	令和元年 5月 16日 提出 令和元年 5月 20日 付託 令和元年 8月 2日 現地視察 令和元年 8月 23日 趣旨採択
審査の結果 : 趣旨採択		

請願 5 号	<b>川崎市の図書館の振興にかかわる請願</b>	令和元年 10月 7日 提出 令和元年 10月 11日 付託
--------------	--------------------------	-----------------------------------

陳情 25 号	<b>川崎市立橘高等学校屋外グラウンドの人工芝化に関する陳情</b>	令和元年 11月 1日 提出 令和元年 12月 5日 付託 令和2年 1月 16日 現地視察
---------------	------------------------------------	--

陳情 39 号	<b>定時制教育を充実させるための陳情</b>	令和元年 12月 16日 提出 令和元年 12月 18日 付託
---------------	-------------------------	------------------------------------

令和元年11月 1日

川崎市議会議長 山崎直史様

中原区  
中丸子橋町会  
会長

ほか 2団体

川崎市立橋高等学校屋外グラウンドの人工芝化に関する陳情

陳情の要旨

- 1 市立橋高等学校の屋外グラウンドの人工芝化
- 2 市立橋高等学校周辺の土ぼこり防止等に役立っている植木（ツツジ等）の一部枯れている部分の再整備

陳情の理由

- 1 橋高等学校周辺は比較的風の強い地域であり、グラウンドに近い中丸子各町会周辺では、グラウンドから風の吹く先でグラウンドの土ぼこりや砂が周辺住民の家の中まで入ってくる状態にある。
- 2 グラウンドの土ぼこりを抑制するため、橋高等学校グラウンドにはスプリンクラーが設置されており、風の強い時に水がまかれているが、スプリンクラーの設置場所に近い周辺の家では風に乗って水が吹き込んでくる状態にある。
- 3 当初、町会の要望などにより植えられた、土ぼこり防止や景観の向上に役立っている橋高等学校周辺の植木も、土地に合わない品種を植えた場所だけ枯れて、機能が失われている場所がある。
- 4 周辺への影響を鑑み、土ぼこりを大きく抑制できるグラウンドの人工芝化と、グラウンド周辺の植木の枯れてしまった部分について、枯れていない部

分と同様の環境に合った品種の植え替えを陳情する。

陳情第 39号

令和元年12月16日

川崎市議会議長 山崎直史様

宮前区  
定時制高校を守る市民の会  
かわさき  
代表

定時制教育を充実させるための陳情

陳情の要旨

- 1 市立川崎高等学校定時制の夜間部2クラスの募集を停止せず、今後も2クラス募集を継続してください。
- 2 市立高津高等学校定時制の募集クラスを減らさず、これからも3クラス募集を続けてください。
- 3 勤務する先生方の負担軽減のため、市立川崎高等学校定時制の教職員定数を増やしてください。

陳情の理由

本市教育委員会は本年11月20日の市議会文教委員会に「市立高等学校改革推進計画第2次計画（案）」の報告をしました。この中で定時制については、①川崎高等学校定時制の夜間部2クラスの募集を停止し、同校昼間部のクラスを今の2クラスから4クラスに増やす、②高津高等学校定時制（夜間）の3クラス募集を2クラスにする、としています。

昼、働いている人だけではなく、不登校を経験した人や高校を中退した人、障がいのある人、外国につながる人、今まで学ぶ機会に恵まれなかった人などの多様な人たちにとっての大切な学びの場になっている夜間定時制高校ですが、近くの夜間の定時制が無くなったり、募集するクラス数が減ったりす

ると、希望する人にとっては入学することや通学することが困難になります。  
また、1クラスの人数が多くなりすぎると、小規模だからこそ可能な現在の夜間定時制の良さが失われてしまいます。今までの本市市立の定時制夜間課程を持つ学校数と募集クラス数を維持してください。

また、昼間部と夜間部の両方を受け持つことで過酷な勤務となっている教職員の負担軽減のために、教職員定数を増やしてください。